

大島中

校訓

郷土を愛し
明るく素直で
たくましく

文責：校長 川内康範

第1回大島村ふれあい運動会

生徒たちへの温かいご声援 ありがとうございます



人権学習集会での校長講話より

まず、文部科学大臣メッセージを読みます。

「東日本大震災により被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒へのいじめの防止について」平成29年4月11日
児童生徒の皆さんへ

東日本大震災により被災した児童生徒または原子力発電所事故により避難している児童生徒（以下「被災児童生徒」といいます。）の方へのいじめが起きています。震災や避難生活によりつらい思いをされている方を、さらに傷つける行為は、決してあってはならないと思います。東日本大震災から6年がたちました。現在でも、震災により受けた被害や傷をかかえながら過ごされている方、ふるさとをはなれて避難生活を送られている方が多くいらっしゃいます。その方々は、つらい経験乗り越え、未来に向かって、日々、一生懸命頑張っておられます。皆さんのまわりにも、同じように頑張っている学校に通っている友達がいると思います。

いじめを防ぐためには、相手の立場になって思いやりをもって行動することが必要です。震災を経験して、ふるさとを離れてなれない環境の中で生活を送る友達のことを理解し、その方によりそい、一緒に支え合いながら学校生活を送ってほしいと思います。また、放射線について科学的に理解することも大事なことです。そうすれば、皆さんが、こうした友達へのいじめをする側にも、見て見ぬふりをする側にもならず、いじめをなくすることができると思います。

このことは、被災児童生徒の方へのいじめに限ることではありません。全てのいじめについ

ても同じことが言えます。新学期を迎え、皆さんが、相手の立場になって思いやりをもって行動し、その結果、いじめが学校からなくなることを心から期待します。

このメッセージを読んで、なぜこのようないじめが起きてしまったのだろうかと考えました。みんないじめは悪いことだと知っているはずなのに……。

「グループシンク」(集団浅慮)という言葉があります。意味は、「二人で考えれば当然気づいたことが、集団で考えることによって見落とされる」現象です。簡単なたとえで言うと、交通量の激しい道路を横断する時、一人で渡る時には、左右をしっかりと見渡し、信号が青になったら渡ります。ところが大勢の仲間とワイワイと会話しながら渡る際には、先頭集団についてゆくことだけを重視し、自動車が迫ってしようと、赤信号だろうと渡ろうとしがちです。皆さんはこのような経験はありませんか？この「グループシンク」は「いじめの構図」に似ているような気がします。

○グループシンクを避けるための対策
対策1 リーダーはメンバーひとりひとりに批判的な目を持つ役割を割り振る。
対策2 それぞれのメンバーはグループの意見について信頼できる外部の人の意見を求めるようにする。

対策3 最低1名のメンバーが「常に反対する」役割を担う。
対策4 リーダーは外部からの警告を検討する時間をあらかじめ確保する。

いじめを根絶するヒントがこの中にあるように思います。大島中が「グループシンク」に陥っていないかチェックすることはとても大切だと思います。この視点を忘れないようにしましょう。